

九州大学箱崎キャンパス跡地のまちづくり 今後のスケジュールについて

九州大学箱崎キャンパス跡地（箱崎中学校など貝塚駅周辺含む）では、福岡市と九州大学などが連携し、周辺地域との調和・連携・交流に配慮した多様な機能の誘導や一体的なまちづくりなどに取り組んでいます。現在、「九州大学箱崎キャンパス跡地グランドデザイン」（平成30年7月策定）の実現に向けて、良好な市街地の形成と多様な都市機能の誘導を図るため、都市計画手続きを行っています。

具体の進め方（イメージ）

民間活力を活かしながら良好な市街地形成を実現するため、多様な都市機能の導入を可能とする用途地域の見直し等を行います。**都市計画手続き1**

その後、グランドデザイン実現に向けて必要となる要件を定め、**事業者公募**を行います。

さらに、まちの魅力をさらに高める提案に応じ、**緩和型地区計画制度（開発整備促進区※などを想定）**の活用を検討しています。**都市計画手続き2**

※開発整備促進区：

大規模な土地利用転換が見込まれる区域において、エリアの魅力向上に資すると認められる場合に、劇場、映画館、演芸場、観覧場、店舗、飲食店、展示場などの多様な用途に供する一定規模以上の建築物の立地を可能とする制度です。

都市計画手続き1

- ・土地区画整理事業の施行区域等
- ・都市公園
- ・用途地域

事業者公募

- ・土地利用計画の提案
- ・壁面位置の制限、街角広場等の提案
…など

都市計画手続き2

- ・提案に応じた地区計画の決定（緩和型地区計画等）
…など

<今回の都市計画の素案>

【1】土地区画整理事業（の範囲）

- ・北半分（北エリア）は、市によって土地区画整理事業を行います。事業の実施に必要な手続きとして、施行区域等の都市計画決定を行います

【2】公園（の範囲）

- ・貝塚公園については、国道3号へのアクセス道路や駅前広場等の整備を行うため、公園区域の都市計画変更を行います
- ・跡地南側の既成市街地における身近な公園不足の解消を図るため、新たに箱崎中央公園（近隣公園約1.0ha）として公園区域の都市計画決定を行います

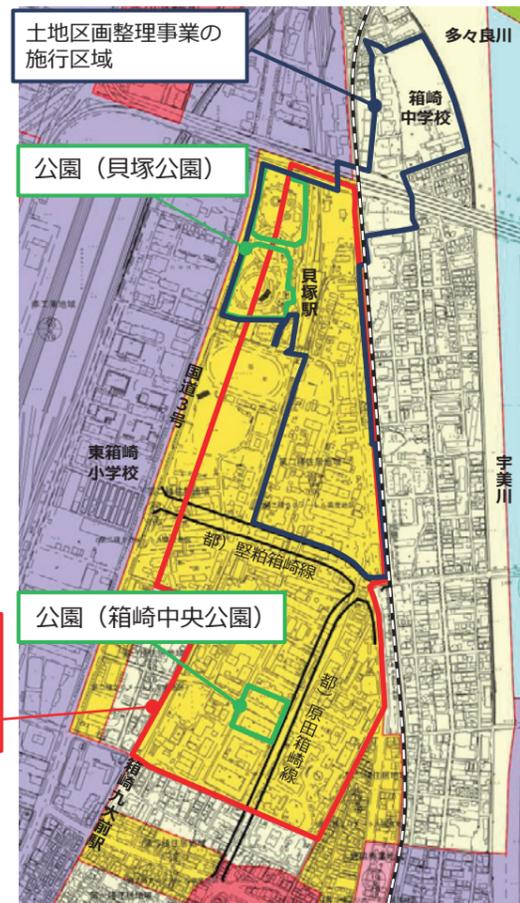
【3】用途地域（の範囲）

- ・土地利用の転換および道路等の基盤整備を契機として、良好な市街地の形成と多様な都市機能の誘導を図るため、一定規模の店舗、業務、住宅等の併存が可能な用途地域として、第二種住居地域への見直しを行います

用途地域

第一種住居地域
容積率200%/建ぺい率60%/
第二種20M高度地区

第二種住居地域
容積率200%/建ぺい率60%/
第二種20M高度地区



【今後のスケジュール(予定)】

- 令和2年3月 福祉都市委員会報告（都市計画審議会付議案）
- 令和2年3月23日 ~4月3日 都市計画案の縦覧（法廷縦覧）
- 令和2年5月 都市計画審議会に付議
- 令和2年6月 都市計画決定告示

F's Report

— vol.2 —
2020(令和2)年3月

地域の声を市政に!

自民党 新福岡

福岡市議会
議員 **東区**

ふじの哲司

ご挨拶

春分の候 皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年12月定例会において、人生100年時代を見据え、福岡市が取り組んでいる「福岡100プロジェクトについて」。近年激甚化している自然災害に対し、「福岡市における水害対策と地域防災について」。この2点について質問致しました。

その内容と、九州大学箱崎キャンパス跡地の今後のスケジュールについてご報告します。事業者の公募に向け一歩前進しますが、皆様方とともに素晴らしいまちづくりをできたらと思っています。

また、新型コロナウイルスに罹患された方が福岡市内でも確認されております。不要不急の外出を極力控え、お身体をご自愛下さいませようお願い致します。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



令和2年度予算要望書を高島市長に提出しました。

藤野 哲司

略歴

- 昭和56年 東区箱崎に生まれる
- 平成元年 箱崎幼稚園卒業
- 平成6年 福岡市立箱崎小学校卒業
- 平成9年 福岡市立箱崎中学校卒業
- 平成12年 福岡県立光陵高等学校卒業
- 平成16年 福岡大学法学部経営法学科卒業
- 平成16年 日栄通信工業株式会社入社
- 平成25年 福岡県議会議員東区 長裕海 秘書
- 平成31年 福岡市議会議員選挙 初当選

役職

- 福祉都市委員会 委員
- 都市問題等調査特別委員会 運営理事
- 九州大学移転・跡地利用対策協議会 副会長
- 福岡市都市計画審議会 委員
- 福岡市建築審査会 委員
- 福岡市開発審査会 委員
- 東消防団箱崎分団 分団員
- 箱崎まちづくり委員会 委員
- 箱崎交通安全推進委員会 理事
- 一般社団法人福岡青年会議所 会員

ふじの哲司市政相談所

〒812-0053 福岡市東区箱崎2-16-48

TEL 092-643-5200 FAX 092-643-5300

E-mail tetsushi.fujino@gmail.com



福岡100プロジェクトについて

1 福岡100プロジェクトの目的と概要について

Q 昨今、さまざまな場面で人生100年時代という言葉が聞くようになりました。福岡市で生活しておられる100歳以上の方は、約30年前の平成元年には29人でしたが、現在は600人を超えています。また、福岡市東区には116歳で世界最高齢の田中カ子さんもお住まいです。まさに100歳まで生きることが特別ではない人生100年時代が目の前に迫ってきていますが、本市が進めている福岡100プロジェクトの目的と概要についてお尋ねします。

A 福岡100プロジェクトにつきましては、人生100年時代の到来を見据え、誰もが心身ともに健康で自分らしく暮らしていくことができる持続可能な社会の実現を目指すプロジェクトで、平成29年7月から取り組みを開始いたしており、その推進に当たりましては、健康、医療、介護分野の取り組みに加え、住まいや地域づくり、働き方なども含めた広い意味でのまちづくりとして、市民や企業、大学など、さまざまな主体の参画を得ながら産学官民オール福岡で取り組みを進めております。

2 AIやICT、IoTの技術やビッグデータを活用した取り組みについて

Q AIやICT、IoTなどの技術が日進月歩で進展しており、ビッグデータの活用も注目されています。これらの新たな技術や手法を医療、介護現場の慢性的な人材不足などの課題解決や、高齢となっても住みなれた地域で安心して生活を続けることができる環境づくりに積極的に取り入れていくことが必要であると考えます。そこで、現在取り組みが進められている福岡100のアクションの中で、AIやICT、IoTの技術やビッグデータを活用した取り組みはどのようなものがあるのでしょうか。

A 福岡100におけるICTやビッグデータなどを活用した取り組みですが、保健、医療、介護等に関するデータを一元的に集約、管理、活用するための情報通信基盤、地域包括ケア情報プラットフォームの構築、かかりつけ医の機能強化のためのICTを活用したオンライン診療の実証実験や国家戦略特区を活用した遠隔服薬指導、介護などケア分野の事業者とベンチャー企業をマッチングし、現場の課題解決につなげるケアテック推進コンソーシアム事業、また、単身高齢者の在宅生活の不安感と地域

の見守りの負担感の軽減につなげるICTを活用した単身高齢者あんしん見守り実証事業などの取り組みを行っております。



自宅に温度・湿度・照度などを感知する多機能センサーを設置して常時見守るとともに、異常を察知した際には電話や駆けつけによる確認を実施し、見守りから安否確認までを一体的に行います。

要望 プラットフォームにより、市民の健康づくりや介護予防などに関する科学的根拠に基づいた最適な市民サービスの提供や市民への啓発などが可能となるほか、医療、介護関係者の情報共有の負担軽減やケアサービスの質の向上にもつながるので、こうした活用に加え、オープンデータ化などにより市民や事業者もデータを利用できるような取り組みを進めるよう要望します。

福岡市における水害対策と地域防災について

平成29年7月九州北部豪雨、平成30年7月豪雨、令和元年8月下旬に九州北部を襲い、豪雨災害をもたらした前線に伴う大雨など、近年、西日本を中心に風水害が続いています。自然災害が毎年のように発生し、しかも、激甚化している中で、市民の大切な命を災害から守るためには、河川改修などのハード面と避難訓練などのソフト面の両方の対策が重要です。

昨年の西日本豪雨に引き続き、ことしもこのような豪雨が発生している状況を踏まえると、気候変動などの影響により、今後とも、豪雨の頻発化、激甚化が懸念されることです。

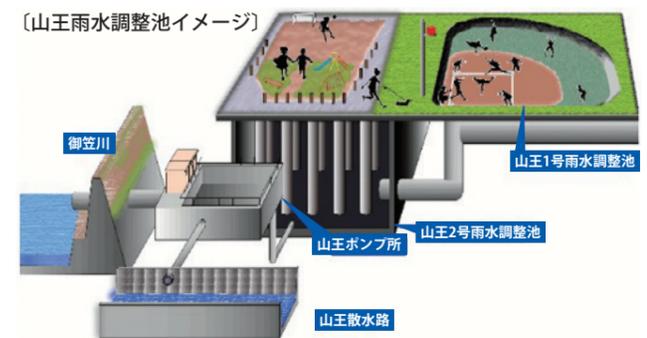
一方で、今回の台風第19号においても、これまで整備した治水施設が確実に効果を発揮したことにより、堤防の決壊が回避された箇所もあることから、今後とも、関係機関の連携による河川改修などのハード対策を推進していくことは重要であると考えます。また、ハード対策とあわせて、防災知識の普及啓発や避難訓練の支援など、地域や関係機関と連携したソフト対策についても進めていき、今後の豪雨災害への取り組みとしては、ハードとソフトの両対策を組み合わせる必要があると考えます。

1 豪雨災害への取り組みとしてのハード対策について。

Q 福岡市では、平成21年7月中国・九州北部豪雨以前にも、平成11年と平成15年に大規模な水害を経験しております。その後の対策として、雨水整備Doプランやレインボープランに取り組んでこられたことは承知しております。そのほかにも豪雨による浸水被害への対策として、ため池の活用など、雨水をためるという方法もございますが、特に都心部では地下などを活用した施設整備が必要と考えます。

そこで、福岡市では博多区の山王公園の地下に雨水をためる施設がありますが、同様に、先ほどのプランによって雨水をためる施設が市内に幾つ設置されており、どれくらいためることができるのでしょうか。

A 博多区において、山王公園の地下に整備いたしました貯留施設である山王雨水調整池を初め、7施設、また、中央区は天神周辺地区におきまして、貯留機能を有する雨水管渠として2施設を整備しており、貯留量は9施設の合計で約12万8,000立方メートルを貯留することができるもので、引き続き市民の安心、安全に向けて着実な施設整備に取り組めます。



要望 水害対策として施設整備によるハード対策は重要であり、限られた予算の中で、引き続き着実なハード整備をお願いしたいと思います。また、河川については、今後とも、2級河川の管理者である県との連携を図りながら、改修などを進めていただきますようお願いいたします。

2 豪雨災害への取り組みとしてのソフト対策について。

Q 大規模な災害が発生した場合、被害を最小限に食い止めるためには、自分自身の命を守る自助の力を高めるとともに、地域住民同士の助け合い、いわゆる共助の力が必要不可欠であり、これら地域防災力のさらなる向上に向け、行政は日ごろから市民に対する防災知識の普及啓発や各地域で行われる避難訓練への支援などにしっかりと取り組んでいく必要があります。

そこで、災害が起きたときの適切な避難行動などについて、市民に対しどのような周知、啓発を行っているのでしょうか。

A 災害時における避難行動につきましては、気象情報や福岡市が発令する避難情報を踏まえ、状況に応じ、御自分の命を守るための適切な行動をとっていただくことが重要でございます。このため、市政だよりやホームページなどによる広報を行うほか、各種講演会や地域での出前講座を実施するとともに、河川の浸水や土砂災害に関するハザードマップ、防災の手引きを配布するなど、災害時の適切な避難行動につながるよう、防災知識の周知、啓発に取り組んでおります。

3 避難所でのユニバーサルな視点について

Q 福岡市は「みんながやさしい、みんなにやさしいユニバーサル都市・福岡」の実現を目指し、市政の柱の一つとしてその取り組みを推進されていますが、災害発生時においてもその視点は重要と考えますが、避難所には高齢者や障がい者、妊産婦、外国人など、さまざまな方が避難していることとなるため、それら全ての人に対する適切な措置が必要となりますが、福岡市地域防災計画などにおいてはどのように定めているのでしょうか。

A 避難所における高齢者などへの配慮につきましては、福岡市地域防災計画において、高齢者、障がい者、乳幼児、外国人、女性、性的マイノリティなど、全ての人に対する適切な配慮を基本理念として挙げております。また、避難所においては、避難されてきた方の状況に応じて、学校体育館などの避難所とは別に、公民館や学校の教室などの一室に設ける福祉避難室や老人福祉施設などの福祉避難所に避難していただくことを定めております。さらに、避難所運営の手引きにおいても、要配慮者の視点に十分配慮した運営を行うよう記載しております。

